

## 編集後記

教父研究会は加藤信朗先生を代表委員として、泉治典先生・今道友信先生・K・リーゼンフーバー先生を運営委員として設立・運営されてきた二五年に及ぶ長い歴史と伝統を持ちます。今道先生とリーゼンフーバー先生が退任され、柴田有先生と宮本久雄先生、それに荒井洋一が新運営委員として加わることになったのは記念すべき第一〇〇回教父研究会の折のことでした。教父研究会は加藤信朗先生を名誉会長として、柴田有先生を会長として、これからも、これまでの精神と理念をできる限り継続しつつ運営されていきます。これまでは秋山学氏が事務局の重責をほとんどお一人で担ってくださいましたが、現在は柴田有先生のご指導を仰ぎつつ、荒井洋一が編集・庶務担当として、また樋笠勝士氏が編集・会計担当として、又野聡子幹事のご助力をいただきつつ仕事を進めています。最大の難問であるテープ起こしの仕事は、又野幹事を初めとして以下の幹事の方々の大きなお力により遂行されました。すなわち上村直樹・川崎千里・中西恭子・柳澤田実の各氏です（五〇音順）。この場をお借りし、あらためて御礼申し上げます。なお教父研究会の開催のご案内は引き続き山本芳久氏に担当していただいていたりましたが、次回教父研究会からは上村直樹氏に担当していただくことになっていきます。

『パトリスティカ』の出版社としては宮本先生による仲介のもと、引き続き新世社にお願いすることができました。現下の厳しい出版状況にありながら、教父研究会に対して示してくださる中山訓男氏のご協力とご理解に感謝申し上げます。

（荒井）